

きょうのテーマ

みんなは「へき地診療所」って聞いたことある？ 離島や山間部など人口が少ない地域で住民の命と健康を守る診療所だよ。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の11番目「住み続けられるまちづくりを」



地球のためにできること

へき地診療所

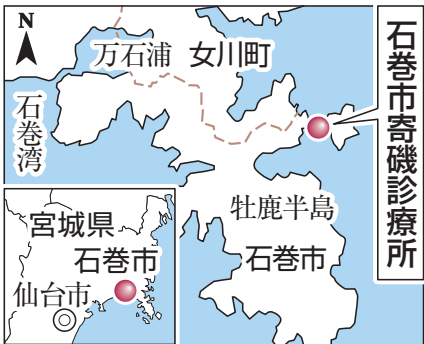
みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



太平洋に突き出た牡鹿半島の小さな漁村、宮城県石巻市寄磯浜地区に市寄磯診療所があります。周辺住民は隣の前網浜地区を合わせて235人



「まちづくりを」に必要な施設だね。住民と向き合い、地域に安心を与える医師を紹介するよ。（8面に関連記事）



顔見える医師 地域に安心

（6月末現在）です。

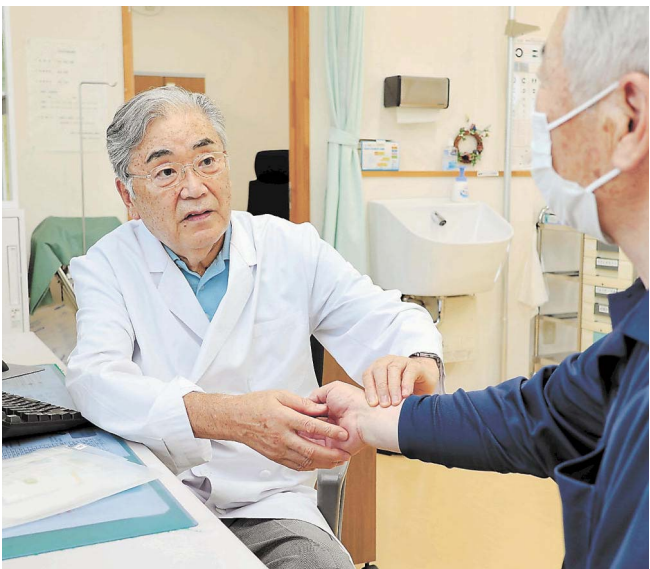
地域でただ1人の医師が元石巻市立病院長の伊勢雄雄さん（77）＝仙台市青葉区＝。診療日の月曜と金曜、約100キロ離れた自宅から車で約2時間かけて通っています。

患者は1日10人足らず。高血圧や糖尿病など長期的に診る必要がある慢性疾患を抱えたお年寄りを中心です。「患者さんとゆったり話しながら診療します。時間はたっぷりありますから」と

ほほ笑みます。

伊勢さんは石巻市出身。1997年に外科部長として石巻市立病院に着任し、2004、17年に病院長を務めました。寄磯診療所には、へき

地医療に尽力した富永忠弘医師（2013年死去、08年度河北文化賞受賞）が長く勤務していましたが、11年3月の東日本大震災後に体調を崩し、伊勢さんが診療に来るようになりました。



触診で患者の体調を確認する伊勢さん（左）
＝宮城県石巻市寄磯浜

大きな病院と違い、診療所に立派な医療機器はありません。「自分の五体を使った診察が極めて大事です。視診、触診、聴診、打診といった昔ながらの医療ですね」と語ります。

「こども新聞 週刊がほピョンプレス」は16日、休刊とさせていただきます。

た患者の脈を確かめながら「眠れていますか？」「食事は取れていますか？」「と声をかけました。いつもと同じやりとり、患者の表情も和らぎます。



月1回は訪問診療があり、漁港近くの山あいの集落を歩きます。坂道が多く、自分の足で歩けないと暮らすのが難しい地域。住民が住み続けられるよう、足腰の負担を軽くする歩き方を伝えることもあります。

この日 何の日

◇9日（日） 長崎原爆の日

81年前のこの日の午前11時2分、米軍のB29爆撃機が原子爆弾を長崎市に投下しました。約7万人以上の市民が亡くなりました。毎年、長崎市では世界平和を祈る日として式典が開かれます。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どき
- 3面 連載「古代のモンスター」
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて話して こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 宮城県のへき地医療は？